

子宮頸がん予防接種の接種勧奨見合わせについて

大紀町役場 健康福祉課

子宮頸がん予防ワクチンは、平成25年4月1日に予防接種法に基づく定期予防接種となり、対象の方には接種のご案内をさせていただきました。

しかし、平成25年6月14日の厚生労働省審議会において、予防接種後にワクチンとの因果関係を否定できない、痛みが続く事例があることが報告され、一時的に接種を受けることを積極的にお勧めしない方針がまとめられました。ただし、接種を希望される方は下記の点にご注意のうえ、引き続き定期予防接種として無料で接種を受けていただけます。ワクチンの接種を希望される方には、子宮頸がんワクチンの予診票をお送りしますので、大紀町役場健康福祉課保健師（TEL 86-2216）までご連絡ください。

この措置は、厚生労働省が適切な情報提供ができるまでの間とされています。詳細は厚生労働省ホームページをご参照ください。

また今後の新たな情報については、大紀町ホームページ等でお知らせします。

<子宮頸がん予防ワクチンの接種を希望される方へ>

病気とワクチンの効果	ワクチンの接種についてのリスク
<p>子宮頸がんは乳がんに次いで、若い女性に2番目に多いがんです。子宮頸がんの7割が、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因で発症します。子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がん全体の50～70%の原因とされる16型・18型のヒトパピローマウイルスに予防効果があり、世界保健機関（WHO）が接種を勧奨し、多くの先進国では公的接種とされています。</p>	<p><比較的軽度な副反応> 発熱や接種した部位の痛み・腫れ、注射の痛み・恐怖・興奮などをきっかけとした失神（一定の頻度で起こります）</p> <p><まれにある重い副反応> これまでに報告のあった重い症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アナフィラキシー（重いアレルギー）約96万回接種に1回 ●ギラン・バレー症候群（末梢神経の病気）約430万回接種に1回報告 ●急性散在性脳脊髄炎（脳などの神経の病気）約430万回接種に1回報告 <p>※因果関係は不明ながら、持続的な痛みを訴える重篤な副反応が報告されており、その発生頻度等については調査中です。</p> <p><接種後の注意></p> <ul style="list-style-type: none"> ●接種後30分程度はイスに座るなどして様子を見て、体調に変化があった場合には、すぐに医師に相談してください。

※ワクチンは全ての子宮頸がんに予防効果がある訳ではありません。ワクチンを接種した方も、20歳になったら必ず2年に1度の子宮頸がん検診を受けましょう。